

平成 22 年度第 4 回平川市地域公共交通協議会会議録

開催日時	平成 23 年 2 月 28 日（月） 午後 1 時 30 分～午後 2 時 30 分
開催場所	平川市役所本庁舎 3 階「応接室」
案件	1) 平成 22 年度経過について 2) 尾上地域実証運行の継続について 3) 平成 23 年度実証運行に係る実施方法等について 4) その他
出席者	（委員出席者） ○木村雅彦委員 ○下山敏則委員 ○一戸修一委員 ○八木橋長委員 ○田中和男委員 ○山下祐介委員 ○小田桐信勝委員 ○古川敏夫委員 ○佐藤成子委員 ○須々田勝久（今俊一監事代理出席） ○藤田潔（工藤清委員代理出席） （出席者 11 名） （事務局） 事務局長 齋藤久世志 事務局員 長谷川尚道、工藤慎一 （委員欠席者） 菊池武弘会長 佐藤順一副会長 葛西幸夫監事 大黒正勝委員 成田修治委員 小野敬子委員 豊嶋修委員 関重雄委員 喜多秀行委員
事務局長	<p>ただいまより、平成 22 年度第 4 回平川市地域公共交通協議会を開催いたします。本日は菊池会長、佐藤副会長、平賀ハイヤーの葛西代表取締役、青森県バス協会の豊嶋専務理事、黒石警察署の関課長、平川市行政委員連絡協議会の大黒会長、神戸大学大学院の喜多教授、ひらかわマイバスの会の小野理事が欠席となっております。名簿をご覧になるとお分かりかと思いますが、9 名の方が欠席しております。辛うじてこの協議会が成立した状況でございます。なお、平川市社会福祉協議会の今副会長の代わりに須々田在宅福祉課長、弘南バスの工藤常務取締役の代わりに藤田受託路線課係長にご出席いただいております。なお、今回青森県交通運輸産業労働組合協議会は弘南バス労働組合執行委員長が見崎信勝さんから成田修治さんに交替していますが、残念ながら本日は欠席となっております。従いまして、委員 20 名のうち過半数の 11 名の出席で協議会規約による会議の開催の要件は満たしていることをご報告します。</p> <p>協議会規約では会長が欠席の場合は副会長が議長となると規定しておりますが、あいにく佐藤副会長も本日止む無く欠席となっておりますので、議長不在の状況となっております。したがって、ここにいらっしゃる委員の中から本日の議長を選出したいと思っております。それでは議長選出について委員の皆さまからご意見を頂戴したいと思っておりますが、いかがでしょうか。</p>
古川委員	事務局で誰か考えているのでは。
事務局長	それでは、事務局案を申し上げます。本日の議長は、ひらかわマイバスの会理事長の佐藤成子委員にお願いしたいと思っておりますがいかがでしょうか。
	（一同異議なし）

事務局長	<p>ご異議がないようなので、本日の議事進行は佐藤委員にお願いしたいと思いません。佐藤委員には議長席にお移り頂きたいと思いません。</p> <p>それでは、協議会開催に先立ちまして、佐藤委員から挨拶を頂きたいと思いません。</p>
議長	<p>本日は、菊池会長と佐藤副会長が欠席となっておりますので、代わりに不慣れな私が議長を務めさせていただくことになりましたので、よろしくお願いします。</p> <p>それではあいさつを申し上げます。</p> <p>皆様におかれましては、公私ともにご多忙のところご出席いただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>さて、昨年10月1日から尾上地域で金屋線と日沼線、11月25日から新屋・尾崎直行便が実証運行されております。本日は、3月31日で終了する予定の尾上地域の2路線の途中経過から、4月以降も継続して実証運行するかどうか、委員の皆さんから意見を聴取して協議していきたいと思いません。よろしくご審議の程、お願い申し上げて、あいさつとさせていただきます。</p>
事務局長	<p>ありがとうございました。それでは、この後の議事進行については、佐藤委員にお願いしたいと思いません。よろしくお願いします。</p>
議長	<p>それでは、次第にあるとおり、議事1の平成22年度経過について事務局より説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>(資料に基づき説明)</p>
議長	<p>ただ今、説明いただきましたが、この件について質疑等ございましたらお願いします。</p>
下山委員	<p>参考までに調べてきたが、8月に当社弘南鉄道の定期を購入した方は新屋の方で買った人が高校生・大学生を含めて27名、尾崎の方で17名。これはあくまでも平賀駅で買った方で調べたものである。3年生卒業で買わないと思うが、1月は新屋が20名、尾崎が14名、以上の方が平賀の駅から通学定期を購入している。あと平賀駅に1月は約60人位、2月は3年生が休み入っている関係で42から45人くらいが自家用車で送迎をされている。このうち何名が尾崎や新屋から来ているかは不透明であるが、この3、4日間調べた結果、送迎している方はこのような人数になった。</p>
議長	<p>ありがとうございました。他に何かありませんか。</p>
山下委員	<p>昨年より乗っていないということをどう考えたらいいか、よく分からない。それから12月より1月の方が乗ったという新しい結果を見ると、昨年とは数字の動きが違うので、意外に需要が出てきているのか。2月になるとまた下がってくると思うので、これをしっかり検証することが必要だと思う。実験なので、成功しても失敗してもどちらでもいいと思うので、失敗した場合にもどういうことがあったのか、一度検証する必要があると思う。少しこちらでも考えてる事があるので、出来ればそれを実現したいなと考えているところである。であるから、この数値については、今出た送迎の数という情報を出していただきましたが、みなさんの方でも考えていることがありましたら出していただきたいというのが一つ目です。</p>

	<p>二つ目はこれを2年半くらいかけてずっとやってきたんですが、私は社会学者であるから交通をやらなければならない立場ではないので多少自由にお話しするが、これは相当厳しいのではないかなと思う。相当手を入れて、新屋の町会長も一生懸命やってくれたので去年はそれなりの数が乗ったが、それでも成功とも失敗とも言えない数になった時に2年目は少し力尽きたのかなという感じである。であるから、乗る、乗らないというのは、これ以上無理かなという気がする。それよりは、暮らしている人たちの意識とか考え方とか将来に対してどういうふうに取り組もうとか、あるいはリーダーをどういうふうに支えるのかというあたりに非常に関係してくる所だと思うし、そこらへんがうまくいかなくなってくると思う。これを単純に失敗した事にするならば、もうバス交通はいらないという結果になる気もしている。1年目結構乗ったので、今から考えると、ものすごく褒めた方が良かったと後悔している。何となく目標に達しなかったので成功とも失敗とも言えないというところでと言ってしまったのが失敗の原因かもしれない。その時、例えば市長から賞状を出すとかという話もあったが、そういうことがあったらまた今年違ったかなと少し悔やまれる。であるから、そういう人の集団を預かっているという形で意識しなければいけないし、それは生き物なので上手くいくときもあれば、同じ方法でも失敗することもあるし、相手方の都合もあるので、これは杓子定規に決めつけたりすることなく次回につながるような形で、どういうふうに継続的に、こういったものを育てていけるのかという形で発想を変えていかないと難しい結果だなという気がすごくしている。それに対して感想などを他の方、どういうふうに思われたか聞きたいと思う。</p>
<p>議長</p>	<p>山下委員から、厳しいご意見いただきましたけど、来年度に向けて事務局の方ではどのようにお考えでしょうか。</p>
<p>事務局長</p>	<p>事務局というよりも、委員のみなさんとの活発な意見をベースに、協議会はそれを次に反映していくような母体だと思っていますので、事務局からの意見というよりは、担当としては、今、山下委員がおっしゃたように成功した、失敗したではなく、この仕組みをどのようにして将来に結びつけていくやり方があるのか検討していくべきではと思っています。その一方で、地域のコミュニティバスも同じような現象で、やってもいいのだが人は乗ってくれない。何が問題なのか、買い物の場合、マックスバリュの玄関口までバスが行ってくれるので、使い勝手の良いバスだと言う高齢の方もいらっしゃる中で、それを使わない方がいかに理解をして地域で支えましよう、自分たちも将来、高齢、足の悪い弱者になった時に救いがあるんだと感じていただけるような施策を展開すべきだと思います。まだ皆さんの同意がそこまで至っていない部分もあるので、ここにお集まりの皆さんはいろんな分野からの代表の方でもございますので、いろんな見地から意見を言っていただければ、次のステップに結び付けられると感じております。1年、2年やって、これがどういうふうな見方をしていたのかと、町会自体が感じていただけたらというのもあるので、やはり少なくともバスを残そうと2年間取り組んでいますので、もう少し長い目で見ると必要があるのではないかなという意見が出てくるのであれば、それはやっぱり3年目もあるかもしれません。ただあまり高い目標を掲げて、失敗だというのは</p>

	無しにして、この問題は脇に置いて考えるべきではないかということも含めて議論していく必要があると私は思っています。
議長	新屋の人もいろいろ話しても、定期を買うとかいろんな活発な意見があったけど、言ってる事とやることは違うんだなと思います。大変な問題ですけど、これを止めてしまうと、惜しい気がします。
山下委員	新屋、尾崎の場合は尾上の2路線と一緒にしないほうが良いと思うのは、やっぱり1年目は相当協力して乗ってるので、そしてやるにしても相当手間をかけている。親も何回も来て話をし、議論をしてやってというプロセスがあって、でもそれを超えるのが意外に外から見ると、口で言うよりも難しい問題が生活の中に潜んでいる。そこらへんは日沼線の方は出来たから便利だという感じなのかもしれない。地域の考えている水準が上がっているはずなので、その上で今回、去年より減ったのでどうするという形で頭から廃止するというのを投げかけずに、あと1年くらいは最低様子を見て、これを見て少し反省して、やっぱりこれはちゃんとしなければいけないという気持ちになってくれれば一番いいと思うのだが、この下地は一回作っているの、そこでどういう反応が出るのか。日沼の方はそこまで集団化していないので、そういう議論をするにもしようがない。新屋の方は、もう1つの作戦として、今乗っている人たちのうちで乗らざるを得ない人は何人かいるので、その乗らざるを得ない人やその親たちはバスがこのままずっと再生されないのであれば、ここで子育てできないという判断になっていく。それはある意味で生活権に関わるので、そこを行政の方でどのように負担をするという形が一番正しいのか、やっぱり地域の人の問題は地域で解決するという論理を普通の人は思っているはずなので、そこをうまく引き出すと前から言っている各戸から1000円くらい負担をしてというのがありましたが、それで十分に成り立つ路線だと思うので、その議論を次に持っていけたらいいのではと思う。今年もいざやってみたら、やっぱり結果が出ないという気持ちになっているので、町会長を含めたリーダーと市役所の事務局がそこを上手に再生するように話を持っていくかどうかで違う。これがうまくいかないのであれば、後はあまり打つ手がないので、いかに再生するように話を持っていくのかで違ってくると思う。あとは弘南バスでない、デマンドなどの公共交通でない方法に移行していくと思うが、果たしてそれが地域にとっていいことかどうか、いい方向に向かっているかと思う。この結果を踏まえて公平性とか財政的な効果ということで言えば、去年よりも減っているのだから止めるという話になりかねないので、逆に協議会の方ではこういう形で見ると議論がいけば、事務局はやりやすいのかなと思う。
議長	やはり、新屋の町会長は一生懸命だったんですが、尾崎の方はそこまでいかなかった。だからこういう結果が出たと思いますけれど、何事にも石にかじりついても3年ということわざがあるのでこのまま続けた方がいいのかなという気もします。地域の皆さんと話し合っていくのがいいと思います。それでは議事2の尾上地域実証運行の継続について、議事3の平成23年度実証運行に係る実施方法などについて続けて事務局からお願いします。

事務局	尾上地域の2路線については、 ①国の補助金が事業仕分けにより廃止と判定されたが、平成23年度に限り補助を継続することが決定したので、運行にかかる財源を確保できた ②どちらの路線とも右上がり利用者が増えてきている ③利用者が低くなる春・夏の利用者数、動態も観察する必要がある という理由により、4月1日から9月30日まで実証運行を継続する案を資料に基づき説明した。
議長	尾上の2路線は今年初めて運行したにもかかわらず右上がりが増えてきているものの、4月になれば雪が消えて乗車率が低くなるのではないかと思います。しかし、国からの補助金が来年度もいただけるということなので、来年度も運行すべきかどうか皆さんに考えていただきたいと思います。マイバスの会でも回数券を発行しているのですが、回数券を発行してほしいという要望があって尾上地区の4箇所が発行したんですが、売れていません。やっぱり言うのとやるのとは違います。
事務局長	広報では回数券のPRをしているんですが、見ていないのかもしれない。
山下委員	八幡崎ではマイバス会の活動してるのか。
議長	八幡崎ではしていません。
山下委員	マイバス会が活動しているエリアと、回数券の売れ行きは関係あるのか。
議長	各町会に1箇所ずつお願いして、「回数券あります」という赤い旗を置いてきますが、新し屋さんでは店頭飾ってますけど、全然売れていないです。
山下委員	全面的に売れてないのか。
議長	売れていないです。
山下委員	老人クラブの試乗会という話が出来ていることは非常にいいので、他の所でもやっていただいて、試乗会の時に回数券の話が伝わればいいのではと思う。広報だけでは、やっぱり伝わってないと思う。マイバス会のお年寄りのバスとかの参加者はこういうバスを残してくれるということに対して、非常にしっかりとした認識を持つし、そういう事を支えてくれていると思っているので、回数券等も積極的に買ってくれると思う。利用者の意識啓発みたいところを、もう少し手を入れられるようにする必要があるのかもしれない。マイバスの会でやっている温泉巡りバスを、老人クラブや社会福祉協議会から周りの町会へ話を持っていくというのも可能なのかもしれない。今、利用している人たちの意識啓発が大事になるという気がした。自主的に乗ったり、口コミしたりというところをうまく育てられればいいと思う。出来たばかりだと、そういう意識になるところがあるのではないかな。
議長	温泉巡りバスの参加者はほとんど平賀地域の方です。何箇所かチラシを書いて貼るのですが、定員がすぐに集まります。ほとんど常連ですが、それを楽しみにしていると言われます。
山下委員	そういうのが尾上の方でも出来て、このバスを使って平賀地域に来てくれる活動をしてくれる人がいればいい。多少費用がかかると思うが、協力的な効果とともに高齢者福祉的な意味合いを含めて、マイバス会でやってた時もそうだが、おばあちゃんたちの力は地域のネットワークにつなぐ力になる事は間違いないと思う。唐竹

	<p>や新屋でやる時も、その手のネットワークが動いて、ある程度の結果が出るわけだから、一概にお年寄りにお金をばらまいていると思わず、そこを含めて実験できればありがたいと思う。</p>
議長	<p>私はマイバス会の温泉巡りの時は「会費でやっているの助成金もなにもないから、会員が少なくなると出来なくなる」と話してます。この間、あいのり温泉に49名行ったんですが、その時も初めて参加した人が10数名いて、そのことをお話ししたら、「私も入る」と言ってくれて、「4月からにしてください」と言って何人が確保しています。いろいろ宣伝はしてるんですが、まだ尾上の方には行っておりません。</p>
須々田代理	<p>49名の年齢層はどれくらいですか。</p>
議長	<p>ほとんどが70代以上で、60代が数名です。</p>
須々田代理	<p>いわゆる自立度が高い人たちですか。</p>
議長	<p>はい、そうです。</p>
須々田代理	<p>資料3ページの方にも載っている尾上地域福祉センターの温泉の利用時間だが、私は介護サービス担当で身体があまり芳しくない方ばかり見ているが、介護サービスを利用していない人たちは行動力があると思う。バスに乗る人たちというのは、かなり行動力があって積極的に何でもやるという次元の人たちが乗る頻度が高いと思うが、絶対数は少ないと思う。センターの温泉に来る人も、バスに乗ってくるという人はバスに乗って温泉に入って帰る。逆に体を動かしたくない人は絶対乗らない。バス停で待つ時間が長く風邪を引くし、バスに乗ってる時間が長いので4、5人で乗合タクシーで来てるというのも聞いた。この間の幹事会の後に調べて、センターに来て温泉に来て帰るという人は4か月の間、バスから降りて乗ってる人は40人くらいである。日沼線の方は火・木・土のうち土曜日だけ入れない。あとの2日間は入りに来ています。ぎりぎりの所で頑張っている人は車を運転するし、バスに乗って行くというよりは友達同士で行くというやり方が多いので、なかなかバス利用者が増えない。特に冬は出て歩かない。夏になれば畑に行ったりとかでバスに乗る機会もなくなる。ある意味、この数字が夏になれば下がるのは間違いない。逆に言えばバスに乗る人は自分で何でも出来るので、用事を足すことのうちの1つがバスであるから、もう1年やるとなんらかの結果が出てくると思うので、この数字をキープ出来るか、冬場の利用者数をキープ出来るか、ひと工夫必要なのかなと思います。土曜日は風呂を衛生のために1週間に1回特別に時間をかけて消毒等の清掃をするので、利用者の要望どおりとしたいのですが時間が取れないので、日沼線については4月からも計画通りでお願いしたいと思います。</p>
議長	<p>他に何かございませんでしょうか。それでは、尾上地域の2路線バスにおいて、4月1日から9月30日までの半年間、実証運行を継続することと決定してよろしいでしょうか。</p>
	<p>(異議なし)</p>
議長	<p>それでは継続することといたします。 本日の議事は以上です。ありがとうございました。</p>